

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□500 人以上の増減があった大学は増減それぞれ 12 大学、いずれも前年度から減少

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。

500 人以上増加した大学は 12 大学（国立大 9 大学、公立大 3 大学）で前年度の 13 大学（国立大 10 大学、公立大 3 大学）より 1 大学減少（国立大 1 大学減少）しました。

一方で、500 人以上減少した大学は 12 大学（国立大 7 大学、公立大 5 大学）で前年度の 22 大学（国立大 18 大学、公立大 4 大学）より 10 大学減少（国立大 11 大学減少、公立大 1 大学増加）でした(図 1)。

図 1 から特に国立大で箱ひげの長さが短くなっており、前年度と比較して増減のばらつきが小さくなっていることなどが読み取れます。

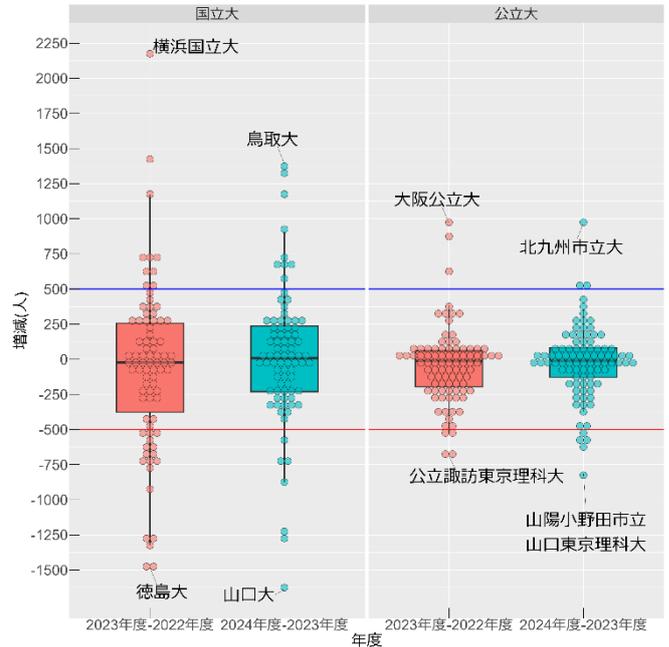


図 1：各年度間における国公立大の増減
各ドットはそれぞれの階級に属する大学を、階級の幅は 50(人)を表す
大学名は最も増減が大きかった大学を表す

□増加数最多は鳥取大、減少数最多は山口大

増加数が最も多かった大学は鳥取大で、1,393 人(143)の大幅増加でした。以下、福井大、島根大の上位 3 大学が 1,000 人以上の増加でした。これら上位 3 大学はいずれも前年度 500 人以上減少しており、反動による増加といえます。なお、鳥取大、福井大は後期のみで 1,000 人以上の増加でした。

一方で、減少数が最も多かった大学は山口大で、1,637 人(76)の大幅減少でした。山口大は 2022 年度における志願者数の減少数が最も多かった大学、一方で前年度においては 2 番目に志願者数の増加数が多かった大学にあたり、前年度の反動による大幅な増減が継続しています。以下、宮崎大、富山大の 3 大学が 1,000 人以上の減少でした。宮崎大は前年度 3 番目に志願者数の増加数が多かった大学で、反動による減少です。富山大は 5 学科→1 学科に改組した理が前期、後期ともに大幅減少したほか、ほぼ半減した学部・募集単位が目立ちました。

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2024年度 ／ 2023年度	2023年度 ／ 2022年度	2024 年度	2023 年度	
鳥取大	+1,393	143	78	4,649	3,256	前期は大幅増加、後期は約1.7倍増の激増。後期は医(生命科学)を除いた全募集単位で増加し、後期だけで1,000人以上増加。生物資源<後>(294)、医(保健)<前>(210)、工<前>(201)は倍増以上、地域(184)<後>、工(172)<後>は激増。
福井大	+1,322	164	61	3,395	2,073	前期は大幅増加、後期は約1.9倍増の激増。後期は教育、医(看護)を除いた全募集単位で増加し、後期だけで1,000人以上増加。工<後>(200)、医(医)<後>(198)は激増、工<前>(145)<前>、国際地域<前>(133)、国際地域<前>(128)、医(医)<前>(126)は大幅増加。

2024年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2024年度 ／ 2023年度	2023年度 ／ 2022年度	2024 年度	2023 年度	
島根大	+1,193	139	84	4,236	3,043	前期、後期ともに大幅増加。生物資源科学(395)<前>は前年度半減以下だった反動で約4倍増の激増、志願倍率は1.1倍→4.2倍にアップ。生物資源科学<後>(294)、医(看護)<後>(245)、人間科学<後>(215)、総合理工<前>(181)、人間科学<前>(165)で激増。
北九州市立大	+969	125	94	4,781	3,812	前期、後期ともに大幅増加。前期は5年ぶりの増加。文<後>(196)、<前>(173)は激増、外国語<後>(137)、<前>(131)、法<前>(131)、国際環境工<後>(122)、経済<前>(118)は大幅増加。外国語、人文系統の人気復活も影響。
茨城大	+908	117	81	6,250	5,342	前期、後期ともに大幅増加で、新設の地域未来共創を除いても増加。農<後>(180)は激増で、2018年度から前年度の反動による大幅な増減が継続。理<後>(138)、工<前>(123)、<後>(119)、教育(117)<前>、<後>(116)は大幅増加。
香川大	+725	128	79	3,348	2,623	前期、後期ともに大幅増加。経済<後>(216)、経済<後>(168)は激増、創造工<後>(148)、医(医)<前>(144)、創造工<前>(124)、法<後>(124)は大幅増加。
長崎大	+683	117	88	4,597	3,914	前期は大幅増加、後期は前年度並。前期の志願倍率は3倍を上回った。医(医)<前>(215)、情報データ科学(179)<後>、多文化社会<前>(173)、歯<前>(160)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。
北見工業大	+668	166	58	1,685	1,017	前期は激増、後期は大幅増加。工<前>(188)、<後>(158)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。
宇都宮大	+665	131	102	2,794	2,129	前期、後期ともに大幅増加で、新設のデータサイエンス経営を除いても大幅増加。前期は農(91)、地域デザイン(92)を除いた学部はいずれも大幅増加で、特に化学系、機械・情報電子系に分けての募集となった工(160)は激増。後期でも工(142)は大幅増加。
電気通信大	+563	118	86	3,755	3,192	前期、後期ともに大幅増加。情報理工(III類)<前>(149)は前年度志願倍率が3学類では最も低い2.4倍だったことから狙われ、大幅増加。情報理工(III類)<後>(130)、情報理工(I類)<後>(116)はいずれも前年度減少の反動で大幅増加。
宮崎公立大	+548	230	70	970	422	前期、後期ともに倍増以上。4年連続減少の反動のほか、前年度、前期の志願倍率2.1倍に対して実質倍率1.3倍、後期の志願倍率7.8倍に対して実質倍率1.2倍と、志願倍率に対して実質倍率が低かったことも影響した。
下関市立大	+518	120	106	3,133	2,615	データサイエンスの新設により前期、中期ともに大幅増加。特にデータサイエンス<中>は募集人員10人に対して、志願者数が424人、志願倍率42.4倍という高倍率だった。既存の経済のみの比較では、前期はやや減少、中期は前年度並だが、募集人員の減少により志願倍率はそれぞれ3.7倍→4.4倍、11.8倍→14.8倍にアップ。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2024年度 ／ 2023年度	2023年度 ／ 2022年度	2024 年度	2023 年度	
山口大	-1,637	76	127	5,184	6,821	前期、後期ともに大幅減少。工<前>(57)、教育<前>(58)、工<後>(59)、経済<前>(67)、人文<前>(73)、<後>(78)、医(保健)(84)<前>、医(医)(85)<前>はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少と、前年度と逆の大幅な増減が目立った。
宮崎大	-1,270	77	127	4,232	5,502	前期、後期ともに大幅減少。医(医)<後>(40)は前年度3倍増以上の反動で激減。地域資源創成<前>(59)、農<前>(70)、教育<前>(77)、農<後>(82)はいずれも大幅減少。地域資源創成<前>の志願倍率は4年ぶりに2倍を下回った。

2024年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2024年度 ／ 2023年度	2023年度 ／ 2022年度	2024 年度	2023 年度	
富山大	-1,248	81	101	5,292	6,540	前期は大幅減少、後期は減少。5学科→1学科に改組の理<前>(47)は半減以下、<後>(81)も大幅減少。また、医(医)<前>(53)、教育<後>(51)、<前>(53)、都市デザイン<後>(55)はいずれも前年度大幅増加の反動でほぼ半減。
横浜国立大	-874	91	130	8,597	9,471	前期は減少、後期はやや減少。しかし、コロナ禍対策として概ね個別試験実施なしとなった影響で前年度比45%減少した2021年度入試との比較では、前期、後期ともに激増。経済<前>(61)、経営<後>(81)、教育(82)は大幅減少。
山陽小野田市立 山口東京理科大	-810	66	97	1,583	2,393	工(医薬工)を新設したが、前期、中期ともに大幅減少。工(医薬工)を除くと、工<前>(39)は激減、工<中>(46)は半減以下で2年連続大幅減少。薬<中>(81)も大幅減少だが、募集人員も19%減少で、志願倍率は14.1倍→14.0倍とわずかなダウンだった。
室蘭工業大	-734	67	141	1,464	2,198	前期、後期ともに大幅減少。理工<前>(64)は大幅減少で2年連続減少、志願倍率は2年連続で3倍以上で推移していたが、わずかに2倍を下回った。理工<後>(68)は3年連続増加の反動で大幅減少。
北海道教育大	-734	78	122	2,647	3,381	前期、後期ともに大幅減少。前期、後期ともに全ての修学校で減少。特に、函館校<前>(68)、札幌校<後>(69)、旭川校<後>(70)、函館校<後>(75)、釧路校<後>(77)、旭川校<前>(84)は大幅減少。
埼玉県立大	-648	45	106	520	1,168	後期廃止による減少が大きいが、前期も前年度大幅増加の反動で大幅減少。保健医療福祉(作業療法)<前>(138)、社会(福祉子ども学)<前>(100)を除いた募集単位で減少。
高崎経済大	-584	90	117	5,377	5,961	前期は大幅減少、後期は減少、中期はやや減少。経済<前>(83)は大幅減少、経済<後>(87)は減少でいずれも前年度大幅増加の反動。
岡山県立大	-579	75	102	1,732	2,311	後期は大幅増加、一方で、前期、中期は大幅減少。情報工<前>(48)は前年度大幅増加の反動で半減以下、情報工<中>(65)も前年度増加の反動で大幅減少。
静岡大	-576	92	111	6,408	6,984	前期、後期ともに減少。情報<後>(62)、農<前>(70)、人文社会科学<後>(80)、農<後>(81)は大幅減少、特に人文社会科学<後>は2年連続大幅減少。また、新設2年目のグローバル共創<前>(68)は大幅減少で志願倍率は2.8倍→1.9倍にダウン。2倍を下回った。
高知工科大	-523	70	79	1,198	1,721	データ&イノベーションを新設したが、前期は2年連続大幅減少、後期も大幅減少で2年連続減少。理工<後>(30)は激減、システム工<後>(42)、理工<C方式><前>(43)、<A方式><前>(45)は半減以下。